

日本学術会議 科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会
「スポーツと暴力」に関するシンポジウム企画案

趣旨

スポーツ界における暴力は、大きな社会問題となっている。高校の部活動顧問による体罰により生徒が自殺した事件、大学体育会指導者が選手に悪質なプレーを支持したとされる事件、相撲・野球・サッカー等のいわゆるプロ・スポーツ界における事件などがメディアで取り上げられてきた。

こうした社会的状況を背景に、体育学・スポーツ科学領域の学会等においても、このテーマは度々取り上げられてきた。そこでの議論にもとづき、スポーツ組織による「暴力根絶宣言」の提示、倫理ガイドラインの作成、相談窓口の設置等の改革、指導者に対する教育・研修の見直し等が行われてきた。しかし、残念なことに、中高等教育機関からプロに至るまで、競技レベルに関わりなく、スポーツ界における暴力行為が根絶されたとは言い難い状況がある。

そこで本委員会では、「スポーツと暴力」の根絶に向けたスポーツ政策策定に向け、体育学・スポーツ科学だけでなく学際的な議論にもとづき、新たな角度からこの問題に迫ってみたい。

なお、このシンポジウムでは、スポーツに直接的に関わる、またはその延長上にある人間関係における暴力的行為を①身体的制裁、②言葉や態度による人格の否定・威圧・嫌がらせ、③性的虐待・性的暴力・性的嫌がらせ、④上記の①～③に対する傍観、⑤その他人権を侵害する行為、として捉えることとする。

【開催要項案】

<日程> 2020年2月8日(土) (遠方から来られる方もいるので、午後に望ましい)

<会場> 日本学術会議講堂

登壇者からの話題提供4題または5題、その後、パネルディスカッション

<登壇者> (2019年10月30日現在)

(1) スポーツ界における現状や対策

登壇者：永富良一先生

応用健康科学・免疫学・社会医学

日本学術会議連携委員・東北大学

(2) 脳科学の立場から

登壇者：村井俊哉氏

人の脳の衝動性制御のメカニズムに関する脳研究

京大精神科教授、日本学術会議連携会員

(3) スポーツ脳科学の立場から

登壇者：柏野牧夫氏

日本電信電話株式会社コミュニケーション科学基礎研究所

(4) パラ・アスリートの立場から (打診中)

登壇者案：田口亜紀氏

2004年アテネ、2008年北京、2012年ロンドンのパラリンピック3大会に射撃選手として連続出場。東京オリンピック・パラリンピック大会組織委員会アスリート委員。一般財団法人日本パラリンピアンズ協会理事、2019年2月よりスポーツ庁参与。

(5) アスリートおよびスポーツ心理学の立場から (保留、日程調整中)

登壇者：田中ウルヴェ京氏

1988年ソウル五輪シンクロ・デュエット銅メダリスト

日本スポーツ心理学会認定スポーツメンタルトレーニング上級指導士